

【杉並区保健福祉計画】杉並区高齢者施策推進計画（案）に対する区民等の意見

※網掛けの部分は、計画に反映させた意見

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
1		1. 杉並区高齢者施策推進計画として、新しい高齢者対応を期待します。 2. 元気な高齢者をさらに元気づけるために、現在の有償ボランティア制度を継続し、増強をお願いしたい。	10
2		「第3章 計画の体系と取組内容 2 取組内容 取組方針2 高齢者の健康づくり・介護予防の推進 (3) 介護予防・フレイル予防の推進」の中に、次のような認知症予防策を追加してください。現在の予防策は知識の習得などが多いですが、一歩踏み込んで診断、検査を行うのも有効ではないでしょうか。もし今回採用できなくても、近い将来の実施に向け少なくとも情報収集の上検討してみたいと思います。 具体的には、神戸市で行っている施策と同様の施策を追加していただきたい。ある書物によると、神戸市では2019年から65歳以上を対象に無料で認知症診断を受けられる制度をスタートさせているそうです。2段階で検査が行われ、地域の開業医による第1段階の簡易な検査で少しでも認知症の疑いがあると診断された人は、第2段階として専門の医療機関で治療を受けることになるそうです。スタート当初8か月の結果は、8718人が第1段階を受診し、2776人が認知症の疑いがあるとされ、この内1872人が第2段階を受診し、1137人が認知症、483人が軽度認知障害とわかったそうです。 神戸市のように充実したものではありませんが、横浜市、名古屋市でも効果的な取り組みがなされているようなので、そちらからも情報収集されると参考になるかもしれません。 ぜひご検討ください。	18
3		高齢者が介護の必要がなく自立して生活できる健康寿命を伸ばすことは区にとっても区民にとっても喜ばしいことです。 そのためにもゆうゆう館などの施設が歩いて行かれる距離に配置されていることが重要です。 現在数が減少し遠くなってしまいました。	4
4		高齢者と障害者を在宅介護しています。オムツ支援が受けられるのは、とてもありがたいです。 要望です。商品の注文をWebで24時間できるようにお願いします。フルタイムで働いています。容体も変化するので頼む商品も月により変わります。電卓で計算し、カタログを勤務場所に持参し休み時間に人目を気にしながら頼むのは、本当に大変です。ネットで自動計算出来たらどれだけ助かるかと思えます。宜しく願い致します。	20
5		取組方針4-⑥、⑦ 高齢障害者が不安なく充実した余生を過ごせるような施策を障害者施策と協働して構築していただきたいです。	27
6		(6)災害時における地域の支え合いの推進 ⑯地域のたすけあいネットワーク（地域の手）登録者増に向けた取組の充実 ⑰福祉救援所の充実 令和5年6月現在、避難行動要支援者名簿（原簿）の対象者数から施設入所者と既登録者を除いた約21,600名が勧奨対象です。毎年の登録勧奨は形式化して推進の具体策が欲しいです。 毎年の登録者の純増を現状1,385名から1,700名の数値増で、その根拠を示して欲しいです。 未登録者の内、在宅で介護度の高い高齢者や重度の障害者への勧奨は緊急度が高いです。 そのような未登録者への発災時の震災救援所からの具体的な対応を示して欲しいです。 杉並区は個別避難支援プランなど他自治体より先行しているが、より効率的な推進ができている自治体を参考にすることも検討してください。 福祉救援所の充実がないと震災救援所や二次救援所からの連携が取れないので、充実するための推進具体策が必要です。	22

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
7		<p>(全文掲載を望まない方のご意見のため、概要を掲載しています。)</p> <p>社会的弱者の高齢者の多くは、各分野で豊富な経験と知識を持ち、また労働意欲もあり、これからの人口減少の社会において貴重な存在であるとともに、高齢化による介護や活躍することができる場の提供が必要になってくると思う。これらのことから、それぞれの地域で、それらのことに対するサポートが必要になる。それを実現するために、地域での対策が重要になってくると考える。また豊富な経験を活用するために、他の世代との交流の場を作り、各世代の全ての人が、他の世代を認め合う気持ちを醸成することも必要になってくると思う。</p> <p>それらのことを実現するために、地域では、高齢者の方たちが希望することを実現し、活用しやすい環境整備が重要になると思う。高齢者やその他の世代の方々に分かりやすく、利用しやすくするために、機能別に分けた施策や相談窓口を設けるのではなく、区内の各地域別に完結できる相談窓口や活躍の場を作ることが大切である。</p>	2
8		<p>(全文掲載を望まない方のご意見のため、概要を掲載しています。)</p> <p>杉並区高齢者施策推進計画における、「活力ある高齢社会と地域共生のまちなの実現」を達成する為に、男・女とも平均寿命日本一を目標に掲げる。</p> <p>現在、川崎市麻生区が男・女とも平均寿命日本一となっているが、麻生区は坂道が多くその為日常的に筋肉鍛えられているという要因があると言われている。ただし、そんな地理的メリットに加え、適切な行政支援が功を奏しているとも言われている。</p> <p>取組方針1、元気高齢者の社会参加の支援と環境整備の充実において、特に社会参加に資する環境整備は重要なテーマだと考える。各地域地域の公園、体育館、図書館、ゆうゆう館等を整備して、取組を盛り上げる必要がある。それが取組方針2高齢者の健康づくり・介護予防の推進と合わせて取組むことにより介護予防・フレイル予防となり平均寿命の向上につながるものと考えている。</p>	12
9		<p>聞くところによると、月間1000人(延べ)近くの高齢者が利用しているゆうゆう館もあるとのこと。</p> <p>コミフラ化を進めることも必要かも知れませんが高令者の利便性を考慮し、一律に立て替え統合するのではなく、各地域の特性に十分配慮した建築或は現状維持の計画を立てることが必要。</p>	5
10		<p>(全文掲載を望まない方のご意見のため、概要を掲載しています。)</p> <p>高齢者施設、特にゆうゆう館においては、高齢者の利用が中心となっている。地域交流等の意味からも若年層との交流を深めていくことで、脳の活性化等心身共に健康に過ごせるようにしていきたい。高齢者のそれまでに培ってきた豊かな知識・経験をもって若年層の方々と交流していくことが重要だと考える。</p> <p>老朽化したゆうゆう館の建て替えに当たっては、体育館施設のようなものも付属していればと思う。</p>	6
11	1	<p>(全文掲載を望まない方のご意見のため、概要を掲載しています。)</p> <p>元気で知識も経験も豊かな高齢者が地域にはたくさんおり、それらの方々が活躍、地域貢献できる環境、場所の整備が必要になる。そして健康の維持増進のためのしくみ。それらによって健康寿命もおのずと延ばすことができるのではないかと。さらには介護が必要になった時の体制づくり。横の連携も大切である。</p> <p>そのための対策として、退職して会社社会と切り離されてしまった高齢者が新たな活躍、集いの場を見つげられることが重要ではないか。</p> <p>高齢者施設がより地域に根差した場所にあり、集いやすい場所にあることや、移動手段に自転車等を多く利用する現状を考え駐輪スペースも必要である。</p> <p>高齢者施設を通して社会活動への窓口、サポート体制、幅広いニーズに合った活動の場の提供。そしてそれらの情報提供をしてほしい。</p> <p>社会とのかかわりの中で、多世代との交流が実現できるのではないかと。教え学びあう形、共通の活動を通して多世代同士の交流のしくみが構築できたらと思う。</p>	7
	2	<p>健康面でのサポートとして、個人差があるものの気軽に相談参加できる窓口や健康増進のための講座、教室の配置が必要である。運動ができる施設やフレイルにならないための知識も必要である。</p>	17

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
11	3	高齢者がいずれ介護が必要になったときの対策はとても重要である。今後一人暮らしの高齢者も増える。家族がいても介護の負担を考えると、任せておけないのが実情である。 ヤングケアラー問題や家族の負担を減らす取り組みの充実も必要である。	21
	4	その局面局面でのサポート体制を充実させることが老後を安心して杉並区で迎えることができることに繋がると思う。	25
12		前略 区政では大変お世話になっております。 先日の区報「皆さんのご意見を募集します」、「パブリックコメント」にお手紙を差し上げたいと思います。 私の家族が認知症が進んで来まして入所できる所を探しているところです。本人(妹)は一人暮らしです。そこで感じた事、お願い等を申し上げます。 特養に入るほどではなく(ケアつき高齢者施設シニア住宅)を探しておりますがそこで提案です。 ☆伊豆の弓ヶ浜の弓ヶ浜クラブが来年(令和6年)3月末で閉館されます。そしてそのすぐ裏側に元健康学園の跡地が広大にあります。この跡地に「ケアつきシニア住宅」を建てて頂きたいのです。 その後症状が進んだ場合、そこから内陸3Kほどのところに特別養護老人ホーム「エクレシア」があります。そこに移ることも考えられます。この両施設があれば安心して入居できます。家族としても安心です。 今の弓ヶ浜クラブは新しい保養所にして頂ければ家族もちょう々見舞いに行けます。 1 元健康学園跡地にケアつき高齢者施設(シニア住宅)を 2 弓ヶ浜クラブの跡地に新しい保養所を ぜひよろしくお願いくださいませ。 お願い申し上げます。	28
13	1	-P39 デジタル技術の活用促進とデジタルデバイド対策について、デジタル機器を持たなかったり、あっても使いこなせない高齢者を支援するサポートも同時に対応出来る必要があるのではと思いました。	15
	2	-P41 代替になるようなプログラムを行う場として、公立小中の校庭や体育館、空き教室の利用をもっと積極的に活用して欲しい。 区内の体育施設は数も少なく、点在しており、高齢者が気軽に参加するには遠く、まずそこで気軽に参加の機会を失っている感がある。 以上よろしくお願い致します。	16
14	1	統計や資料が丁寧に記載しており、高齢期の住民の様子がイメージしやすくてとても良いと感じた。以下、分かりにくかった点。 1、課題の設定として、6項目あるが、P23(4)地域包括ケアの推進の【今後の課題】はどこの自治体にも言える内容で意味がない。第1層・2層協議体や地域ケア会議が、地域を変えていく地域包括ケアシステムの構築に値するほど根本的に機能していないことを記載すべきだと思う。	1
	2	2、P30からの取組方針1～4について、とても分かりやすく参考になるが、自身は何をやったらいいか分からないという人が多い。相談窓口としてケア24が設置されているので、情報をケア24に集約して、ワンストップの相談援助機関であることを明確にすると参加する高齢期の住民が拡大すると思う。ケア24が介護になって、助けてもらう施設と誤解している住民が多い。地域で生きがいを持って主体的に活躍する機会を相談できる場所としてもっと周知すべきと考える。	24
15	1	高齢者、障害者、子どもなどとの共生社会を目指すこと、大いに期待します。 施設再編などに関して、上記の関係部署が区民の希望を組み取り、反映できるようなプロジェクト的なものを作って進めて頂きたいと思います。 その際には、日頃の生活面でサポートしている社会福祉協議会、地域包括、民生委員などの意見を重点的に採用ください。組織にとらわれず日々活動されています。	31

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
15	2	浜田山会館の建て替えに関して保留となっておりますが、地域包括ケア24は拠点の移動を求められていると聞いております。高齢者にとって利用しやすい場所が他にあれば異論はないのですが、現在の浜田山会館が最適場所に思います。高齢者、障害者、子どもなどがみんなで使えるような施設をぜひ考えていただきたいと思います。	26
	3	最近できたばかりのセシオン杉並ですが、館内案内がわかりづらいと思います。館内の配置図、利用状況表示に併せてトイレ、エレベーター利用の表示も工夫をお願いします。更衣室がトイレ内にあるのも表示が不足していてわかりづらいです。表示が困難であれば、障害者への対応も併せてコンシェルジュのような方の配置を望みます。	32
	4	別件です。下高井戸、永福、和泉あたりに住んでいる方にとって区役所、区民事務所に出向くのがかなり困難です。高齢者が利用する施設への移動も同様です。公共交通サービスを井の頭線最寄り駅から永福体育館、下高井戸運動場、おおぞら公園など経由してアクセスできるようお願いします。	13
	5	地域でのつながりに微力ながらお手伝いしています。多くの活動団体が、活動資金に困窮しています。ぜひ支援の体制を強化して頂きたいと思います。ぜひ、「笑顔がつながる杉並」を作りたいと思います。	33
	16	1	「終活」についての項目がありますが、単に死後の手続きの事や不安ではなく、どう老いて行くのか？どう最期を迎えるのか？それは、今をどう生きるか？に繋がると思います。 杉並区には社会教育という様々な事を学ぶ機会が沢山あります。また、自分を守る為の成年後見制度等、生きて行く上で必要な学びもあります。 是非、杉並区民の生き方を考えられるような「エンディングノート」では無く、「生き方、暮らし方ノート」のようなものが出来ると良いと思います。それは、高齢者から後に続く人達へのバトンにもなって行ける様に縦割りでは無く、社会教育や社会福祉協議会、高齢者施策課等、横断的な施策ができるとう良いと思います。 (一緒にノートを作成する等) せめて、文言を再検討して頂けたらと思います。 世代を超えて重層的支援体制を構築して行くなれば、尚更必要になってくるのではないかと思います。
2		また、災害の時の「地域の手」と日頃の見守りである「地域の目」の連携も検討して頂けたらと思います。 それは、高齢者や障害者、子供だけのことで無く、お互い様の地域を作って行く基本になると思います。	23
17	1	○ P34(4) 介護人材の定着・育成支援の充実の⑮初任者研修受講料の助成に関連して ・5年先、10年先の介護現場の人材不足危機が予想されている中で、健康なシニア世代が介護現場で今以上に活躍できるように研修対象や受講料の助成の周知に力を入れていただきたいです。元気な高齢者が介護を必要とする高齢者を支援するためのスキルを磨き就労することでスキルに見合った報酬を得ることが、人材確保につながるのではないかと思います。	29
	2	・同じ項目の⑯介護ロボットの導入支援 (P61の介護ロボットの例の写真よりも含む) 「見守りセンサー」を实际使用している区内施設で説明を聞き、職員の業務負担が軽減されているとのことでした。このように負担軽減につながる「見守りセンサー」などについて施設に広く周知してもらい、導入したいと考えている施設に対して、区独自の経費の助成の充実を図ってほしい。	30
	3	○ P38⑬新たな公共交通サービスによる移動の選択肢の拡充についての文中・グリーンスローモビティーについて WEBで電動車を活用した試運転についての様子や報告を読みました。とても良い取り組みと思いましたが、観光目的にするのか弱者(高齢者や障害者、乳児を連れた方など)のQOL(生活の質)を上げる取り組み、生活の足にするのか？アンケート結果や高齢者や障害者などの要望意見も聞いて、目的をはっきりさせ、ニーズに合った「グリーンスローモビリティ」にしてほしいです。	14

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
18	1	<p>○高齢者の社会参加のインセンティブづくりについて</p> <p>私は前期高齢者世代ですが、P17の図のとおり、健康状態と生きがいには強い相関があると感じています。ところが、P11の図では、平成22年度から平成25年度にかけて、前期高齢者の主観的健康観の「よい」が15ポイントほど減少しその後は横ばいになっています。背景はわかりませんが、前期高齢者のいきがい対策は重要課題と推察します。</p> <p>さらに、P16以降記載されているいきがい施策の実績はどれも横ばいまたは減少傾向ですが、P36以降に記載されている今後の取り組みでは「実施します」「支援します」「進めます」と記載されているものの新たな具体的施策の記述はなく現状維持と読み取れます。前期高齢者世代、特に定年直後世代に対する社会参加のインセンティブに資する新たな施策を検討すべきと考えます。</p>	3
	2	<p>この世代の社会参加がもっと進み、生きがいを維持し長く健康で過ごせることは「『人生100年時代』を自分らしく健やかに生きることができるまち」という将来像に合致すると考えます。</p> <p>そこで、ひとつ提案ですが、私がよく利用する地域区民センターやふらっとでは夜間の会議室の稼働率がかなり低いように感じます。ゆうゆう館で行っているような無償で定期的に使える場所として開放してはいかがでしょうか。</p>	8
19		<p>杉並区は、先駆的に高齢者の学習の場として、杉の樹大学、すぎなみ地域大学を開講し、地域貢献やボランティア活動に携わる区民の養成を展開してきました。当杉並介護者応援団も地域大学卒業生が、地域貢献として、17年前に支援の仕組みを組成し、杉並区と連携したさまざまな介護者支援事業や、小・中・高校での認知症サポーター養成講座を展開させて頂いています。</p> <p>一方、メンバーの高齢化も進み、自分たちが介護を受ける年代になって、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるためには、介護保険制度の仕組み・サービス内容及び自身の機能改善等についての高齢者本人やその家族、地域住民の知識向上が、大変重要と考えました。そこで、令和5年度、杉並区、地域包括支援センター、社会福祉協議会に相談し、「すぎなみ老年学講座」を立ち上げ、現在、ゆうゆう高円寺東館で、杉並区との協働事業として6回シリーズの講座を開催し、実践させて頂いています。</p> <p>この講座は大変好評で、令和6年度から始まる杉並区高齢者施策推進計画では、全住民に案内し、幅広い区民の方が参加できるよう対応をお願いしたい。</p> <p>また介護人材不足の補完として、介護の一部代替が可能な介護ロボット等の利用促進や、希望者への講座テキストの配布が可能となるようにしたい。</p> <p>このテキストには、杉並区発行のパンフレット及び「国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター」他の介護・医療に関する先端的知識やそれに基づくテキストの内容を取り入れていきたいと思っています。</p> <p>こうした取り組みにより、杉並区の進めている「地域包括ケアシステムの推進・強化と認知症施策の推進」へと繋がることを期待しています。</p> <p><令和5年度開催のすぎなみ老年学講座> すぎなみ老年学講座 杉並区との協働事業 テーマ：～人生100まで住み慣れた我が家で暮らしたい～ 在宅での暮らしを望んだ時に、安心して自分らしい生活をおくるために ①介護サービスで、住み慣れた「我が家」で暮らすには 2023年7月31日 講師：ケア24和田センター長 中村充宏氏、杉並介護者応援団共同代表 川崎裕彰 ②フレイル予防 講師：看護師&理学療法士 2023年8月31日 ③成年後見制度と事例 2023年10月31日 講師：杉並区成年後見センター主任相談員 鈴木佳子氏 ④老年学から考えた認知症。 2023年11月30日(オンライン講座) 講師：武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授 渡邊浩文(杉並介護者応援団理事) ⑤知っ得！入所施設のアレコレ 2024年1月31日 講師：杉並介護者応援団共同代表 川崎裕彰(ソーシャルワーカー) ⑥介護サービスを使い、在宅で生活する事例 2024年2月29日 講師：杉並区ケアマネジャー協議会会長 相田里香氏</p>	11

番号	枝番	意見(全文)	区の考え方(別紙2)の該当番号
20	1	以下、デイホーム高円寺北ふれあいの家及び高円寺北ゆうゆう館を中心に展開していく事業を列記いたします。杉並区高齢者施策推進計画及び杉並区障害者施策推進計画に反映していただきたくよろしくお願い申し上げます。不明点があれば、ご気軽にいつでもご照会くださりたくよろしくお願い申し上げます。 認知症当事者によるIntentional Peer Supportの研究及び相互教育の普及支援 認知症介護親族・認知症地域支援者相互によるIntentional Peer Supportの研究及び相互教育の普及支援	34
	2	ボランティア有志が主体となった、高齢デイサービス施設の利用者の送迎付添(原則歩行による)	35
	3	共同浴場・緑地公園河川等への外出の際の送迎付添・入浴食事介助者の育成及び同活動支援	36
	4	デイサービス施設における厨房の最有効使用・・・たとえば、ボランティアが主体となった昼食づくり及び昼食会の開催	37
	5	教育委員及び塾指導者協同による生涯教育(スポーツ・芸術芸能・語学・資格・科学)事業の推進	38
	6	幅員4m未満の道路の介在する地域における自動車乗り入れの原則禁止	39
	7	狭小宅地権利者による隣接地や周辺地の買取利用を促進する税制・金融制度への転換	40
	8	まちづくりの高度化・透明化・民主化に寄与する相互教育の普及(特に、都市計画道路・高速道路等幅員道路の危険嫌悪施設・コミュニティ破壊施設としての側面の周知徹底)	41
	9	地域通貨の段階的広域化・デジタル化事業	42
	10	介護報酬・医療費の成功報酬化(介護度・健康向上度への寄与に応じた高報酬化と健康悪化に至った場合の報酬の減算や罰金化の仕組みへの転換)	43
	11	Thomas Quasthoff氏による日本歌曲CD制作の支援 以上	44
21	私は区民センターでボランティアをしております。 区民の高齢者を考える時、7館のセンターを中心とした、楽しく、元気に交流する場所作りが必要であると思います。高齢者は遠出が出来ません。交通の便がよい所がよいと思います。独居や老老介護が増える昨今、一人でも地域の皆さんと顔見知りであると、元気よく、楽しく、明るく暮すことが出来ると思います。 実際に生演奏や歌声サロンを講座として開きましたが、大好評で健康維持や交流の場所として、年数回はお願いいたしますという意見もありました。 高齢者は自分参加の楽しさを求めていると思います。	9	